

2018 年 1 月 23 日に群馬県で発生した草津本白根山噴火の現地調査報告

調査隊メンバー

隊長：柴山知也

隊員：富井遥亮 脇田尚幸

調査概要

2018 年 1 月 23 日 09 時 59 分ごろ、群馬県吾妻郡草津町と嬭恋村にまたがる草津本白根山が約 3000 年ぶりに噴火しました。噴火に伴い、火口北東方向で降灰が確認されました。当研究室では、草津本白根山周辺の火山灰の降下状況を解明するため、2018 年 1 月 25 日に火口から北東方向へ 6～23km 程度離れた地点で現地調査を実施しました。現地調査では、複数の地点における降灰量の計測及び元素分析等を行う為の火山灰試料の採取を行いました。

調査地点

研究機関、報道機関による発表や、地元住民の方のお話に基づき、火山灰の移流方向を推測し、調査地点を選定しました。具体的には、図 1 に示すとおり、草津本白根山近郊かつ山頂からみて北東方向の 5 つの地点において火山灰の降灰状況や痕跡の確認を行いました。



図1 2018年1月23日噴火の降灰量測定結果(地理院地図に加筆)

調査の様子と調査結果

調査を行った時期は積雪期であり、雪の堆積層の間に火山灰が確認できる状態でした。具体的には、図 2 の様に、厚さ 1cm 程の層の中に火山灰が含まれているといった状態でした。吹雪の中、火山灰が降灰した後、降雪したためと考えられます。

降灰量の測定は、図 3 の様に火山灰層周辺の雪ごと一定面積分を採取した試料を、十分乾燥させた後に行いました。降灰量の測定は全 5 地点（チャツボミゴケ公園、熊倉集落、白根開善学校、和光原、四万温泉）で行いました。火口から約 23km 離れた四万温泉でも降灰が確認できました。火口から最も近いチャツボミゴケ公園は 59.5g/m² と最も多く、遠方になるにつれて降灰量が少なくなることがわかりました。ただし、場所により差があるものの、全体的に降灰量は少量でした。



図 2 雪層に挟まれた火山灰層



図 3 火山灰採取の様子

表 1 調査地点と降灰量

場所	g/m ²	火口からの距離(km)
チャツボミゴケ公園	59.5	6.3
熊倉集落	8.60	6.6
白根開善学校	5.58	7.7
和光原	18.6	11.1
四万温泉 ベンチ	1.26	22.8
四万温泉 スペース	0.610	22.8

総括

現地調査の結果、草津本白根山近郊かつ山頂からみて北東方向の 5 つの地点において、火山灰の降灰が確認できました。降灰量は少量ではありますが、雪の堆積層の間に火山灰

が確認できました.